ひ　だ　地　学
http://outdoor.geocities.jp/sokasoda/index.html
Email:
2018 年 2 月 26 日発行
第 202 号
飛騨地学研究会
Ｈ．Ｇ．Ｒ．Ｇ

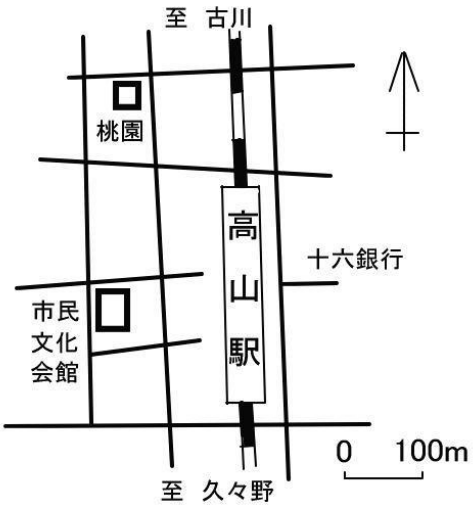
1　飛騨地学研究会総会・下畑五夫先生の叙勲を祝う会について（お知らせ）

以下のように行います。ふるってご参加ください。

～飛騨地学研究会総会～

【日時】平成３０年３月１７日（土）
午後１時３０分～

【場所】高山市民文化会館（高山市昭和町 188-1 TEL ）
平成２９年度の活動報告・会計報告・平成３０年度の活動計画
ジオパークについて、話題提供など
プロジェクター、ノートパソコンは準備します。



～下畑五夫先生の叙勲を祝う会～

【日時】平成３０年３月１７日（土）
午後６時～

【場所】桃園（高山市昭和町 2-67
TEL

【会費】5000 円程度

総会、祝う会に出席いただける方は、３月１２日（月）までに、以下に連絡してください。出席が一方だけになる場合は、そのように連絡お願いします。メールの場合は着信の返信をします。

【連絡先】中田携帯
中田パソコンメール
中田携帯メール

2　飛騨山脈ジオパーク構想フォーラムの報告

12 月 3 日（日）、飛騨山脈ジオパーク推進協議会の「飛騨山脈ジオパーク構想フォーラム」に行ってきました。パネリストの下畑名誉会長、協議会の直井会員を除くと、飛騨地学研究会からは、鷲見、寺門、岩塚、加藤、中田の各会員が参加しました。

快晴の青空の中、会場の奥飛騨総合文化センターには、12 時すぎに到着しました。ロビーに入ると、飛騨の名峰、笠ヶ岳、焼岳、乗鞍岳等が、ポスターで紹介されていました。ホールは、300 人程度は入れる立派なものです。地元の方、砂防学習の発表を行う小学生の保護者らしき方など、会場が大きいため空席はありましたが、結構な参加者数でした。

まず、いち早く民間主導でジオパークの認定を受けた「立山黒部ジオパークの取り組み」の基調講演がありました。立山黒部ジオパークは、2014 年８月、「高低差 4000m ロマン～富山の中の地球へ行こう～」というテーマで取り組んでいます。また、ジオパークとは、次のように定義されます。科学的に価値が高い地形や地質の景観を保全し、防災、観光や

教育に活用し、持続可能な開発をめざしている地域をいいます。加えて、ジオパークの条件として、①地形や地質の価値を証明する学術論文の存在、②地形地質に加え、動植物の生態、人の歴史や文化との深い関連、③地域ぐるみのボトムアップの活動、があるとのことでした。立山黒部ジオパークの範囲は、富山湾から長野岐阜県境に接する地域で、富山県の東半分以上を占めることには驚きました。飛騨山脈ジオパークも、神岡方面まで含めてもよいのではないかと思いました。

次に。地元の栃尾小学校の生徒達約 10 名による砂防学習の発表がありました。土砂災害防止功労者として、国土交通大臣表彰を受けているそうです。発表は、スライドを入れながら、焼岳の噴火や栃尾地区の土石流災害の紹介、京都大学防災研究所の方による防災学習の様子、地元の様々な砂防堰堤の説明がありました。以上のストーリーを組み、小学生が順番に発表しました。小学生は、発表内容も暗記し大きな声ではきはきと発表しました。大きな拍手は、言うまでもありません。

最後に、メインのフォーラムです。岐阜大学の三井　栄氏をコーディネーターとし、パネリストは以下のようです。JTB 関連の武田　賢氏、飛騨地学研究会の下畑五夫氏、乗鞍五色ヶ原のガイドの上平　尚氏、奥飛騨観光開発のガイドの増井　恵氏、そして高山市長の國島芳明氏。

手始めに、それぞれの立場からジオパークについて述べてもらいました。武田氏は、ジオパークとして、人間との関わりも含めた地図を作製し、旅行等に役立てたらどうかと提案されました。下畑氏は、元高校教師の立場から、地形地質の研究対象としての飛騨地域の重要性や、防災等に対する地学教育の必要性について述べました。上平氏は、地域で体験したことがガイドとして役立つことを述べ、若い人がガイドを目指し生活が成り立つ環境づくりについて要望されました。増井氏は、新穂高ロープウェイ周辺、鍋平高原のツアーの紹介をされ、ツアーでも外国の方が増加したので、英語でも対応できる人材の育成が必要だとお話しされました。國島氏は、最初、観光資源のピーアールだと思っていたが、地域の活性化につながる運動だと認識したとのことでした。また、パネラーのような各方面の協力が必要なこと、ジオツアーやジオ講演会など市民がジオパークに出かける機会が必要なこと、外部の意見を参考に地域の活性化になればよいことなど、行政も協力していきたいと述べられました。